

令和2年度 看護実践研究指導事業報告

I. 本事業の目的と実施概要

本事業の目的と実施概要

I. 本事業の目的

平成13年度から引き続き、県内看護職が大学の知的資源を利用して自己学習や業務改善ができるようにすることを目指し、看護の実践研究指導・研修の事業として取り組んだ。

事業の実施に際しては、単に研修や指導を行うのではなく、県内看護職の現状を把握して、現場の実態に即応した適切な指導・研修の方法を模索しながら行うこととし、現職者自身による問題解決を促進していくことを重視している。他方、大学としては、これらの活動をする一方で、今後の学部・大学院教育の充実を図り、特色ある活動を導くことを念頭においている。

したがって、本事業はその目的において下記のような特徴を備えている。

- ・県内看護職が大学の知的資源を利用して自己研鑽や日常の業務改善ができるようにすることを指す看護の実践研究に関する事業である。
- ・県立大学であることを強く認識し、看護学の高等教育機関の社会的使命や在り方を踏まえて県内看護職の質の向上を実現する一つの手段として取り組む事業である。
- ・単に知識伝達型の一方通行的な講義で行うのではなく、大学教員が現場に出向いて県内看護職の現状を把握することを基本とする、県内看護職やその実践の実態に即応した適切な指導・研修の方法を開発する、県内看護職自身の主体的問題解決を促進する、などを重視する事業である。
- ・看護学科や大学院看護学研究科の教育研究環境の一層の充実を図り、本学で育成した人材の県内施設への就業と定着しやすい環境づくりを目指して取り組む事業である。

II. 本事業の研修方法

研修方法は、教員が対象に合わせて創出することとしているが、①教員が看護職者の現場に出向いて現状を把握し、②看護職者や看護実践の実態に応じた指導・研修方法を開発しながら取り組むもので、③看護職者自身の主体的な問題解決を促すことを重視してきている。

また、看護職者の主体的な実践研究の実施を奨励すること、岐阜県という広範な地域を視野に入れてケアサービスの質向上を目指すこと、課題解決に向けた方策を研修受講者同士が話し合っ創出すること、少人数配置など研修機会が得られがたい看護職者を対象にした研修を企画・実施すること、研修機会を通じた他施設との交流や看護職者同士のネットワークづくり等にも留意してきている。

したがって、本事業の研修方法の要件を整理すると以下ようになる。

- ・県内看護職が日ごろ実施している看護実践活動の実態と課題を確認し、彼らが提供する看護実践の質向上を図る上で有効であるとして大学教員が企画した研修である。
- ・特定施設や特定地域に限定することなく、提起した課題に関する研修は、県内全域の状況に対して責任を持って企画することを基本とした研修である。
- ・専門職である県内看護職に対して、自己の技術や実践方法の改善・充実について研究的取り組みを行う看護実践研究の実施を大学として奨励することを手段としつつ、主体的専門職者育成を前提にして企画した研修である。

Ⅲ. 今年度事業の実施

本事業には、大学と岐阜県内の看護実践現場の看護職者との連携や組織的関係を強化するという観点から、看護研究センターの教員が本事業の全体的な調整や報告書の取りまとめを担当している。

年度当初の4月に学内から事業課題の公募を行い、今年度は「利用者ニーズを基盤とした入退院支援の質向上に向けた看護職者への教育支援」「看護の専門性を高めるマネジメント能力向上に向けた支援」「専門看護師の看護実践の質向上を目指す研修会」「養護教諭のスキルアップと養護教諭像の醸成を目指した学びの会」「地域の実態に即した子育て支援の充実に向けた保健師の役割を考える研修会」「看護実践研究学会への研究支援」の計6つの継続事業課題が申請された(表1)。

8月に共同研究事業とともに看護実践研究指導事業も追加申請を受け付けたが、応募はなかった。

表1 令和2年度看護実践研究指導事業の実施一覧

No.	開始年度	事業課題名	担当者
0201	平成24年度 (9年目)	利用者ニーズを基盤とした入退院支援の質向上に向けた看護職者への教育支援	地域基礎看護学領域： 藤澤まこと、黒江ゆり子、杉野緑、 加藤由香里、渡邊清美 機能看護学領域：橋本麻由里、田辺満子 岐阜県健康福祉部医療福祉連携推進課：若原明美
0202	平成27年度 (6年目)	看護の専門性を高めるマネジメント能力向上に向けた支援	機能看護学領域： 両羽美穂子、橋本麻由里、古澤幸江 宗宮真理子、水野優子、安田みき、田辺満子
0203	平成28年度 (5年目)	専門看護師の看護実践の質向上を目指す研修会	成熟期看護学領域：奥村美奈子、布施恵子 育成期看護学領域：岡永真由美、茂本咲子 地域基礎看護学領域：藤澤まこと 機能看護学領域：橋本麻由里 看護研究センター：黒江ゆり子
0204	平成28年度 (5年目)	養護教諭のスキルアップと養護教諭像の醸成を目指した学びの会	育成期看護学領域：長瀬仁美 機能看護学領域：松本訓枝
0205	令和元年度 (2年目)	地域の実態に即した子育て支援の充実に向けた保健師の役割を考える研修会	地域基礎看護学領域： 大井靖子、山田洋子、吉村 隆、堀 里奈、 岡本美和、森仁実、北山三津子 看護研究センター：大川眞智子、松下光子
0206	令和元年度 (2年目)	看護実践研究学会への研究支援	看護研究センター： 大川眞智子、松下光子、米増直美、小森春佳

IV. 今年度事業の運営

5月の看護研究センター運営委員会が開催されなかったが、申請された6つの事業課題は前年度からの継続課題なので、実施計画と予算が書面審議され、予算配分の調整を図った上で承認後に開始となった。各事業課題の予算は表2のとおりである。

6つの事業課題の予算は看護研究センター運営委員会と看護研究センターの意見等を受けて修正されたものが提出され、合計が1414198円であった。これに共通経費600000円を加えた2014198円が本事業の当初予算である。

今年度の研修実施状況をみると(表3)、コロナ禍により研修を実施できた事業課題は3つ(0201、0202、0204)であり、いずれもオンライン研修であった。他に1つの事業課題(0203)で意見交換をオンラインで実施している。

各事業課題の代表者および看護研究センター教員が出席する「代表者等会議」を従来は5月と12月の2回開催していたが、今年度はコロナ禍により5月の開催はせず、12月10日(木)17時より開催した第1回の会議では報告書作成前の中間報告として、今年度の実施内容・成果・課題等を確認・共有し、次年度の活動の方向性など今後の取組みに向けて協議するとともに年度末の自己点検評価の実施要領や報告書原稿の執筆要領の説明を行った(表4)。

また、今年度は研修方法がすべてオンラインであったため、研修方法の1つとしてのオンライン研修のあり方を検討していく上での意見交換を行った。さらにオンライン研修を実施した事業課題に対してオンライン研修を実施する上での解決すべき問題点や今後の課題・要望等の年度末の報告書への記載を依頼した。

表2 令和2年度看護実践研究指導事業の予算

No.	代表者	事業課題名	予算
0201	藤澤まこと	利用者ニーズを基盤とした入退院支援の質向上に向けた看護職者への教育支援	688,520
0202	橋本麻由里	看護の専門性を高めるマネジメント能力向上に向けた支援	134,204
0203	奥村美奈子	専門看護師の看護実践の質向上を目指す研修会	50,800
0204	長瀬仁美	養護教諭のスキルアップと養護教諭像の醸成を目指した学びの会	62,520
0205	大井靖子	地域の実態に即した子育て支援の充実にに向けた保健師の役割を考える研修会	21,954
0206	大川眞智子	看護実践研究学会への研究支援	456,200
小計			1,414,198
共通	修了証用上質紙		3,000
	報告書印刷費(抜刷分含む)		162,000
	人件費(66日×4500円)		297,000
	予備費		138,000
	小計		600,000
合計			2,014,198

表 3 事業別の研修実施状況

No.	事業課題名	今年度の実施状況
0201	利用者ニーズを基盤とした入退院支援の質向上に向けた看護職者への教育支援	アドバンス研修（3回）： 2020年10月21日（水）（第1回） 2020年11月25日（水）（第2回） 2020年12月23日（水）（第3回） エキスパートミーティング： 2020年11月25日（水） 参加者：7名
0202	看護の専門性を高めるマネジメント能力向上に向けた支援	ワークショップ「地域包括ケアを推進する看護専門職のマネジメント」（オンライン） ・2020年11月9日（月）9時から2020年11月17日（火）12時までオンデマンド配信（第1部） ・2020年11月17日（火）Live配信（第2部） 参加者数：17名
0203	専門看護師の看護実践の質向上を目指す研修会	研修会を企画担当の4名の専門看護師と教員との意見交換を1月26日（火）18時30分から1時間程度オンラインで開催。
0204	養護教諭のスキルアップと養護教諭像の醸成を目指した学びの会	第1回テーマ 「保健教育のスキルアップを目指して」（オンライン研修） 開催日：2020年8月22日（土） 第2回テーマ 「校種の異なる養護教諭の経験から、With コロナの時代の養護教諭の在り方を考えてみませんか」（オンライン研修） 開催日：2020年12月12日（土）
0205	地域の実態に即した子育て支援の充実に向けた保健師の役割を考える研修会	集合研修を夏に実施予定であったが、実施できず。 昨年度の聞き取り調査結果を資料としてまとめ、研修対象者（西濃圏域11市町の保健師、西濃保健所母子保健担当保健師、岐阜県子育て支援担当保健師）へ送付。 日本地域看護学会第23回学術集会において「妊娠期からの切れ目ない子育て支援における保健師実践活動の現状」の演題で誌上発表。
0206	看護実践研究学会への研究支援	5研究課題について研究支援を行った。 規模を縮小した学会開催。 年度末の学会誌刊行を支援。

表 4 代表者等会議の開催概要

日程	参加者	内容
第1回 12月10日（木） 17:00～18:40	代表者：奥村、藤澤、橋本、大井、大川、松本、長瀬 看護研究センター：黒江、松下、会田、米増	・今年度の予算執行状況報告 ・今年度の各研修の進捗状況報告と意見交換 ・報告書原稿の提出と自己点検評価の実施 ・オンライン研修についての意見交換

看護職者が、生涯学習の一環で本事業の研修に参加（修了）したことを証明し、職場等にも提示できるように、平成 25 年度から事業代表者の要請に応じて、本事業の研修参加者に対して参加証（修了証）を大学として発行することとしたが、令和 2 年度は、2 つの事業「利用者ニーズを基盤とした入退院支援の質向上に向けた看護職者への教育支援」「看護の専門性を高めるマネジメント能力向上に向けた支援」の研修会で修了証を発行した。

本事業による研修会・ワークショップ等の開催日時・場所については例年同様、本学ホームページで公開し、広報に努めた。本事業の実績と成果を明示するために、平成 21 年度からは本事業報告書を PDF 化し、本学ホームページにて公表してきたが、27 年度から本事業報告書を本学リポジトリで公開することを開始し、倫理面に関して十分に配慮するよう執筆要項に明示するとともにリポジトリでの公開にあたって事業ごとに 3～5 個のキーワードを付けてもらっている。

事業課題ごとの自己点検評価は大きく 5 つの観点から行っている。「実践の場と与えた影響」についてはさらに「①看護行動の変化」と「②看護職の行動・認識の変化」の 2 つに分け、「本学の教育・研究活動と与えた影響」についてはさらに「①教育活動への効果」と「②研究活動への発展」の 2 つに分け、残りは「本事業を通して捉えた看護職の生涯学習ニーズ」「本事業を実施する上で困難な点・課題」「今後の発展の方向性」の 3 つである。

IV. FD 研修会の開催

平成 29 年度に本事業で実施した研修の 16 ヶ年の実績をとりまとめた冊子を 400 冊印刷・刊行して学内外に配布したので、この冊子をもとにして平成 29 年度末に看護研究センターと教育能力開発委員会の共同企画で『看護実践研究指導事業のこれから』をテーマにした FD 研修会を開催した。平成 30 年度も同じテーマで前年度の議論を継続することを目的として、同様に FD 研修会を開催した。

本事業の成果を共有する場として、共同研究事業の「共同研究報告と討論の会」のような報告会が開催できればよいが、年度末にそのような場を設けて全教員が参加するのは日程調整の面で難しいという問題がある。

したがって、このような FD 研修会の形で本事業の成果を共有しながら本事業の意義と今後の方向性を考えていくのは有効な方法であると思われる。令和元年度は FD 研修会を開催せず、隔年開催など定期的な形で FD 研修会を企画・開催することを令和 2 年度は検討する予定にしていたが、コロナ禍で検討そのものが困難であった。ただ FD 研修会自体は Microsoft Teams を用いてオンラインで開催でき、従来のような集合する形式を取らなくてよいので、次年度以降の企画・開催を検討していきたい。

これまで開催した FD 研修会の概要は以下のとおりである。

【平成 29 年度の開催日】平成 30 年 3 月 7 日（水）

【平成 29 年度のプログラム】

時間	内容・担当	場所
13 : 00～13 : 10	研修会の趣旨および進行の説明（大川） 看護実践研究指導事業の趣旨・目的について説明（会田）	講義室 203
13 : 10～13 : 55 (各 15 分)	事業紹介（45 分） ・取組開始の経緯（取組の必要性、他事業等との関連を含む）、 趣旨・目的、取組内容、その成果と課題、今後の方向性 ①利用者ニーズを基盤とした退院支援の質向上に向けた看護職者への 教育支援（藤澤） ②地域における母子保健活動の充実に向けた研修会（布原） ③看護の専門性を高めるマネジメント能力向上に向けた支援（両羽）	
14 : 00～14 : 30	グループワーク（30 分） ・事業報告を聞いて看護実践研究指導事業の取組内容・方法等について 考えたこと、看護職者の支援ニーズは何か、今後新たに必要と考えら れる看護実践研究指導事業の取組は何か、等を意見交換する。	

【平成 30 年度の開催日】平成 31 年 3 月 6 日（水）

【平成 30 年度のプログラム】

時間	内容・担当	場所
13 : 00～13 : 05	研修会の趣旨および進行の説明（大川）	講義室 203
13 : 05～13 : 50	事業紹介 各 15 分 ・取組開始の経緯（取組の必要性、他事業等との関連を含む）、 趣旨・目的、取組内容、その成果と課題、今後の方向性 ①県内の過疎地域診療所等の看護職者への研修（森） ②県内の高齢者ケア施設の看護職者への研修（古川） ③岐阜県における End-of-Life Care 充実に向けた研修会（奥村）	
14 : 00～15 : 00	グループワーク（60 分） ・事業報告を聞いて看護実践研究指導事業の取組内容・方法等について 考えたこと、看護職者の支援ニーズは何か、今後新たに必要と考えら れる看護実践研究指導事業の取組は何か、等を意見交換する。	講義室 203 演習室 200～204